

J-37

## 片瀬東浜海の家整備計画

### Enoshima unified sea house project

増田伸 服部立 尾坂凌弥 足立一真 渡邊裕太 上田祐樹 小林直明

Shin Masuda, Tatsuru Hattori, Ryoya Osaka, Kazua Adachi, Youta Watanabe, Yuki Ueda, Naokaki Kobayash

Kanagawa Prefecture Fujisawa City, Katase Higashihama is one of the leading beach in Kanto, which is used by 500,000 to 1 million people every year. Enoshima which is located opposite is designated as the Tokyo Olympic sailing venue of 2020 and further development is expected in the future. Therefore, the number of users of sea houses lined up on the coastline will increase greatly, and international recognition will also increase. On the other hand, the maintenance of the ocean's house is not sufficiently adequate. Because each business operator builds a home of the ocean of the desire, there is no sense of uniformity in the scenery, and wood damaged by the sea breeze gives a shabby impression. The wastewater treatment is simple, and it can not cope with the greatly increased demand. We need to make improvements in order to make them sufficient to disseminate overseas.

Fujisawa City takes the initiative to propose a plan to unite the house of the Katase Higashihama Sea.

#### 1. はじめに

神奈川県藤沢市、片瀬東浜は例年 50 万から 100 万人が利用する関東有数の海水浴場である。向かいに位置する江の島は 2020 年東京オリンピックセーリング会場に指定されており、今後さらなる発展が期待される。そのため、海岸線に並ぶ海の家利用者数は大幅に増加し、国際的な認知度も高まると予想される。

一方で、海を家の整備は十分に行き届いていない。それぞれの事業者が思い思いの海の家を建てるため景観に統一感はなく、潮風で傷んだ木材はみすぼらしい印象を与える。排水処理は簡易的なもので、大幅に増加した需要には対応できない。これらを海外に発信するに足るものにするため改善する必要がある。

そこで藤沢市が率先し片瀬東浜海の家を一体整備する計画を提案する。

#### 2. 計画背景

海の家は、通常建築できない海岸に仮設建築として設営されるのが主流である。仮設であるため夏に限定的に増加する需要に対応することができる。事業者も殆どが専業ではなく、夏の間のみ副業として営んでいる場合が多い。また土地は代々その場で営んできた者が営業権を有し、営業権の売買や貸し借りを行われている。通常、市が新規参加者に海岸での海の駅営業を認めることがないため、新規参加者は先代から土地を譲渡されるまたは借りなければならない。この仕組みがある以上、事業編成の大幅な変更は難しいと考えられる。

他方では、2020 年オリンピックに向けて木材の不足が懸念されるため、代替材料を検討する必要がある。

これらを考慮した上で統一感のある海を家の計画が求められる。

#### 3. 計画敷地



敷地は江の島東浜に約 2km にわたって続く片瀬東浜に位置する。敷地に接する海は遠浅の砂浜で、干潮時には江の島まで歩いて行くことができる。南側に位置する江の島、東側に位置する腰越岬によって波が遮られ、比較的波が穏やかであるため、海水浴に適しているといえる。

片瀬東浜海水浴場は、江の島海水浴場営業組合が管理し、同組合では「江の島東浜海水浴場」と称している。小田急江ノ島線、江ノ島電鉄線、湘南モノレールと、3本の公共交通機関からアクセスできる利便性も特色である。気候変動によって大きく変化するが、年間平均 83 万人程度の来客数[1]を誇り、全国 1 位の片瀬西浜・鵜沼海水浴場に次ぎ、鎌倉や須磨（兵庫県）の海水浴場と全国 2 位の座を競っている。

また藤沢市には、手入れが行き届かない森に竹が繁茂する「竹林問題」を有する土地が存在し、整備活動が行われている。

#### 4. 建築計画

そこで以下の特徴を有する海の家を提案する。

##### 4-1 仮設形式とする

仮設形式とすることでオフシーズンの維持管理をなくす。屋根、柱、スラブを有する一階平屋形式とする。

##### 4-2 営業場所、運営形態は既存のものを用いる

古くから受け継がれている土地利用の利権を崩すことなく円滑な運営を目指すため、共通の構造体を提供しつつ、それぞれの事業者に従来からの敷地を割り振り、営業を委ねる、

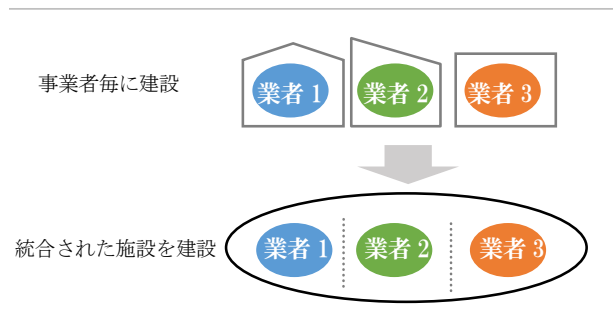
##### 4-3 材料に竹を用いる

オリンピック開催時に不足が予想される木材の浪費を防ぎながら日本らしい質感を追及するため、構造体に竹を用いる。また藤沢市の竹林問題の解消と地域活動を融合し、新たな経済活動の機会を生む。

##### 4-4 屋根材を膜構造にする

施工性に優れた膜素材を屋根に用いることで、組立解体、保管を容易にする。また、適度な透過性を持つため施設内を明るくし、白い膜がヨットの帆とも重なることによって意匠性にも優れる。

場所そのまま施設を統合



イメージ写真

